日本臨床歯科補綴学会・特別講演

＜テーマ＞

補綴装置の”天井”と”底”の基準を明確にする

平成２０年３月２９日（土）

日本歯科大学富士見ホール

日本臨床歯科補綴研修会15周年記念講演

記念講演１　12:05〜13:00

適正なクラウンカントゥア、エマージェンスプロファイルとはどういう形態か？

桑田正博

愛歯技工専門学校学校長
ボストン大学歯学部客員教授
天津医科大学客員教授
アメリカ歯科審美学会　（AAED）フェローメンバー
ヨーロッパ歯科審美学会（EAED）名誉会員
国際歯科学士会(ICD)名誉会員

修復治療とは“そこにあるべき姿をそこに再現することである”と思う。この機会に、そこにあるべき姿とは？を、考えてみたい。それは口腔の失われた組織を適切な修復材料を選択して生物学的、機能的そして審美的な“クラウンカントゥアー”に創生することである。

歯の形（補綴装置）を創生するとき、歯冠の「天井」、すなわち咬合面の形態は、咬合の機能をいかに回復するかで決まってくる。また、歯冠の「底」、すなわち“エマージェンスプロファイル”は、歯肉や歯肉溝をいかに健康に保つかで決まってくる。

歯冠と歯根との生物学的移行形態を基礎としての「軸面外形基準」を明確にするためのスケールが、カントゥアーガイドライン、スリープレーンコンセプトそして三角構造の理論であり、これらが修復装置の強度と審美性の回復を保証する“要”ともなる。

この機会に、これらについて解説させて頂きたい。

記念講演２　13:05〜14:00

補綴装置内部構造としての支台歯が有するべき形態とその形成基準

西川義昌

代々木上原デンタルオフィス
日本臨床歯科補綴学会会長
日本臨床歯科補綴研修会講師
東京SJCD会員
NMG顧問

支台歯形成は単に補綴装置が入るためのルームではない。形成された支台歯の形態により補綴装置はその外形を規定されるため生物学的、構造力学的、機能的、審美的に満足のゆく補綴装置を作るために支台歯形成はとても重要となる。

一方、疾患の進行を左右する２つの因子は「細菌と力」であるといわれている。炎症を惹起しない、自然で審美的な外形をもつ補綴装置には周囲組織と歯との関係をよく考慮した支台歯形成が必要となるだろうし、安全な舌面の誘導路、咬合面接触点を持ち、咬合力に対して十分な抵抗性を持つ補綴装置が入るには「力」を考慮した支台歯形成が必要となる。

今回はこのような「天井」と「底」を持つ補綴装置が入るための下部構造としての支台歯形成の基準について明らかにしたい。

記念講演３　14:10〜15:05

補綴装置を顎機能に調和させる咬合構成の７要素とは

小出　馨

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第１講座主任教授
日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学教授
日本補綴歯科学会評議員，同学会指導医
日本顎関節学会評議員，同学会指導医
東北大学大学院，九州大学大学院非常勤講師

補綴装置の天井にあたる咬合は、咀嚼をはじめとする機能回復率を大きく左右する諸機能の場であるとともに、残存組織の保全にも大きく影響を及ぼすため、顎機能との調和が特に重要となる。しかし、咬合を顎機能と調和させるための構成基準は、これまで十分に体系づけられていなかった。

本学会では、咬合の基本的構成を ①中心咬合位の位置、②中心咬合位の接触関係、③中心咬合位の安定性、④偏心位でのガイドの部位、⑤偏心位でのガイドの方向、⑥咬合平面の位置、⑦咬合平面の彎曲度 の７つの要素で組み立てることにより、患者さんお一人お一人の顎機能と調和した最も安全で望ましい咬合の構築が行えるよう体系的システム化を図っている。

今回はこの咬合の７要素ごとに、どのように診断して咬合を構築するのか、その基準を具体的に示す。

記念講演４　15:10〜16:05

咬合構成の７要素による診断用ワックスアップの基準と臨床の実際

星　久雄

星デンタルラボラトリー
日本臨床歯科補綴研修会講師
日本歯科大学新潟歯学部歯科技工研修科非常勤講師
新潟大学歯学部付属歯科技工士学校非常勤講師

補綴治療における歯列再建にあたっては、チェアサイドによる咬合の診査診断、診断用ワックスアップ、プロビジョナルレストレーションこれら機能的、形態的情報がありラボサイドでは最終補綴物の製作にあたることになる。また時にはチェアサイドとの連携の中でラボサイドにおいてもこれらの作業を行うことがあるので基本的な咬合構成の７要素を熟知しておく必要がある。

今回は、咬合構成の７要素における中心咬合位の前歯、臼歯の接触関係、前歯のアンテリアトゥースガイダンス、臼歯咬合平面のなどの基本的な決定基準を話し、それに基づいた臨床の実際を見て頂く。

16:15〜16:50

記念講演者４名によるパネルディスカッション

桑田正博・西川義昌・小出　馨・星　久雄

日本臨床歯科補綴学会会員講演

テーマ：明確になった基準を臨床で具体化する　　座長　吉澤和之(株式会社オーリアラ

会員講演１　17:00〜17:30

シングルクラウンの治療をモデルにした診査診断の重要性

大西一男　おおにし歯科医院

歯科治療の現場においては、常に３つの診断すなわち、病態診断、メカニズムの推定、エンドポイントの設定、を行い治療に入るべきである。

それは、エンドであれペリオであれ、どの治療にも当てはまることだと考えるが、とくに修復処置では病態診断は比較的しっかりなされるとしても、残る２つの診断については、日常臨床では、ややもするとなおざりとなりやすいように思う。

今回は、シングルクラウンの処置に焦点を当て、しっかりとした診査を基にして、３つの診断（今、その歯はどのような状態か、なぜその歯はこのような状態に至ったか、どういうクラウン形態にするのか）を行い、再治療のリスクをできるだけ無くすように配慮した実際の治療の流れを見ていただくことにする。

会員講演２　17:30〜18:00

顎口腔系諸組織との調和を図るコンプリートデンチャーの印象

宮本績輔　宮本歯科医院

「患者さんが心から喜んでくれる義歯」を具現化するためには、義歯の構成要素である①床縁②床内面③床研磨面④咬合面が、いずれも患者さんの顎口腔系諸組織と形態的・機能的に調和しているか否かを的確に診査・診断できることが重要な鍵となる。

印象採得は、この4つの構成要素のうち、「床縁・床内面の決定」に重要なかかわりを持っており、特に難症例であればあるほど、その術式に確かな知識と熟練が要求される。

今回は、臨床例を供覧しながらコンプリートデンチャーの印象採得について、その臨床的基本事項をご一緒に確認していく。

日本臨床歯科補綴学会(JCPDS)事務局
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘３−３４−６
旭ヶ丘歯科クリニック内
e-mail : info@jcpds.jp　http://www.jcpds.jp
Fax : 022-275-2918